

# 会報 大ヶ谷戸こだなか

発行責任者 大ヶ谷戸小田中町会長 志村 勝  
 編集 町会広報部  
 印刷 (有)中溝グラフィック

## 『発刊によせて』

町会長 志村 勝



小田中町会の会員の皆様、新年明けましておめでとうございませう。また、町会の会報『こだなか』の発刊、心よりお慶び申し上げます。

昨年五月、総会において皆様のご推挙を頂き町会長になりました。

総会でお約束した幾つかのテーマについても町会役員の皆様との積極的な協力により『すみれ会』の発足やカラス対策の『ネット』配備につきましても推進することができました。

また、市総合防災訓練への参加や恒例の盆踊り、祭り、ソフトボール大会など諸行事の実施についてもスムーズに執り行い、実り多い成果をだすことができました。運営、事前準備にご協力いただいた皆様、町会を代表して心から御礼申し上げます。

さて、その上で幾つかの新

たな取り組みについて、今後皆さんと検討してまいりたいと思っております。

一、ソフトボール大会で参加者に好評であった、グラウンドゴルフの導入について

二、子供会主催の運動会をすみれ会の皆さんも交えた町会全体での取り組みにすることについて

三、町内会における危険場所の交通安全対策の取り組みについて

四、地域防災計画にある町会の自主防災対策の取り組みについて

五、町会における介護ボランティアのネットワークについてなど

いよいよ、二〇〇〇年、新しい世紀にむけて本年も新たな決意で皆様と一緒にいろいろな知恵を出し合い、また意見を交わし合い、私たちの町会『こだなか』づくりに進んでまいりたいと思っておりますので多くの皆様のご参加をぜひお願い申し上げます。

おわりに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とします。

一九九九年度の重点事業

- ◇環境問題
- ◇社会福祉問題



## すみれ会 新たなスタート

会長 挨拶

小林 幸悦

大ヶ谷戸小田中町会の皆様、新年明けましておめでとうございませう。また広報誌、創刊誌におめでとうございませう。

昨年九月五日、町会事務所にて大ヶ谷戸小田中町会老人クラブ「すみれ会」が設立されました。現在、男性二十二名、女性三十六名という多数のご参加をいただきました。厚くお礼申し上げます。

今後の活動と致しまして、年に二度くらい旅行、あるいはカラオケというように出来る事から実行してまいりたいと考えております。いずれにしても、高齢化社会が問題になっております。私も其の一人として地域の皆様と共に、心、温まる触れ合いを通して会員相互の親睦を、そして、小田中町会「すみれ会」の発展に努力をしまぬ所存でございます。役員一同、

### すみれ会

こんな会にしたい

田村 豊子

すみれ会は志村勝町会長の英断で、九月五日に門出し、小林会長を始めとして私共数人の世話係は心を合せて事にあたる事になりました。会員の方々と私達は仲好しの輪を拡げ、昨今失なわれつつある心を大切に、集会の時は遠慮のないご意見を頂き、無から有を生み出し、残る人生を有意義に過し、少しでも生き甲斐を感じ、次の集いが待たれる様な楽しい行事を計画して、一步一步前進し皆様の期待に添える様に頑張ります。



## きれいな街づくり

一ゴミ問題

二部九組 長谷川・加藤 道路拡張工事により、ゴミ集積所が移転する事になりました。どこへ移転するか、ゴミカゴを設置するか、カラスネットはどうするか又誰が管理するか等、地域の方々と話し合いました。南武沿線道路のゴミカゴの設置してある集積所は、夜間や休日にゴミを出し、ポイ捨て等でいつもゴミが有る状態で、悪臭、カラスの害他、目を背けたくなる事が多くゴミカゴは設置しない事にしました。ゴミの出し方を徹底し、集積所近隣の家に迷惑をかけぬ様、ゴミ収集後ホウキとチリトリをバトンに各戸一週間交代で掃除をする事にしました。又分別収集に付いては、分別カゴを収集日のみ設置することにしました。それまで空き缶等は、各家で収集日まで保管してあります。カラスネットを常設してからは、カラスの害はなくなりました。移転に心良く承諾して下さいました方々に感謝の気持ちが忘れず一人一人がルールを守りきれいな町にしたいですね。

## 子供会の活動いろいろ

子供会会長 渡辺 信夫

私達子供会は、年間のスケジュールにそって、数々の行事を行っております。今までの行事をご紹介します。五月には運動会、七月には夏期行事としてプール開放、ラジオ体操、十二月の餅つき大会、十一月には、大戸地区育成会主催の「友達遊ラリー」への参加。又、町会主催による盆踊りでの模擬店出店の応援祭りの協力を行ってまいりました。

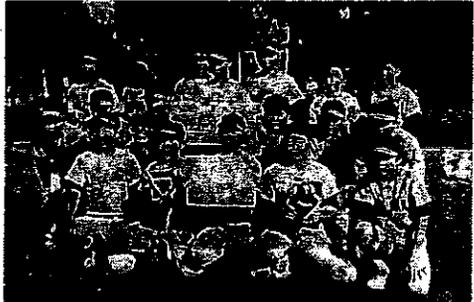
今後の予定としては、大戸地区育成会等主催の行事として「書き初め大会」、「スケート大会」に参加します。子供達の元気な姿が何より楽しみです。

## 婦人部の楽しい活動！

婦人部長 齋藤 美代

あけましておめでとうございます。婦人部例年の活動予定を申し上げます。ふるってご参加ください。

- 一月 婦人部役員見学会
- 二月 又は三月芸術座観劇会
- 四月 婦人部総会
- 五月 日赤募金活動に協力・消火訓練。実際に消火器を使って火を消す練習・川崎市統一多摩川美化活動に参加
- 六月 バス研修 世界一五〇余品種のゆりの競宴可睡り
- 七月 中町婦連講演会に役員三回出席・盆おどり練習・敬老者の調査、本年は昭和五十二年三月三十一日生れ迄の方・町会盆おどり大会参加協力
- 九月 敬老記念品お届け・町会参礼参加協力
- 十月 十五日(第三日曜日)中原区民祭参加・町会ソフトボール大会協力
- 十二月 火の用心の協力



## おめでとう 野球部のみなさん

部活動として、野球部が活躍しております。徳江監督の元、コーチの皆様による厳しさの中にも暖かい指導によって、百五十チーム参加の川崎市大会で、見事三位の成績を収めました。おめでとうございませう。尚、野球部では部員の募集を行っております。連絡先 徳江監督まで TEL 七八八-二〇二三

# 今・地域の学校では

## 「大ヶ谷戸小学校編」



校長 竹内 一夫

地域の皆様には、日頃より本校の教育活動につきましてご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。特にPTAの資源回収事業には、特段のご協力を頂き、環境整備等に役立たせてもらっています。

竹内 一夫

まず、深く感謝申し上げます。さて、皆様には既に「ゆとり」の中で生きる力を基本方針にうたっています。しかし、休日を増やし、学習内容を厳選して生み出したゆとりを使い方いかんによっては、ますますストレスをためる結果にもなるのではないかと、この危惧も感じます。

また、教育改革は教育行政や学校の在り方についてだけでなく、かといふ思いもありません。例えば、平成九年の厚生白書「国民栄養調査」によると朝食を子どもだけで食べている率が年々増加し、平成五年当時で既に三割を越える状況となり、今や夕食さえも一人という現象さえうまれているとのことです。食事は親の子を思う愛情を自然に子どもに伝える役割を果たし、

心の発達に大きな影響を与えていると言われています。このようなことを考えた時に、子どもを置き去りにした生活をしていないのか家庭生活を振り返り、改善することも教育改革の一つであると認識することも必要だと感じられずにはいられません。

今学校では、新学習指導要領の求める「生きる力」の基礎は、人との関わりと捉え、他とコミュニケーションする力をどうつけるか、授業を通して研究しているところです。このような力は、楽しい家族との団欒や地域活動を通しても培われます。ゆとりある中で、「生きる力」を育むためには、皆様のご協力が是非必要と感じる昨今です。

# 耳をかたむけたい 町の人たちの声

民生委員さんから

村上 泉

防衛庁自治会長

柴田 弘

私達、民生委員児童委員は、中原区大戸第二地区民生委員協議会として新城上小田中地区に三十一名で構成されています。民生委員活動は対策となる方のプライバシーを守り、各方面とのパイプ役やアンテナ役を務めるものとして理解してあります。私達の活動の成果を声高に云云すること何となくためらわれます。民生委員としては、目立たないよう必要な手を差し伸べられるよう、常に勉強し、気を配らなければなりません。どうか町会の皆様の声やご意見をお聞かせ下さい。

日頃、小田中町内会の方には、大変お世話になっております。防衛庁は転勤が多く、全国転々としており、この私も広島島の呉、横須賀などの勤務を経験してきました。しかし、この小田中に来てから、初めて町内との親密なふれあいに接することができました。盆踊り、関神社祭礼、ソフトボール大会、餅つきなど、ここが本当に関東の都会かと思ふほど人間味あふれる土地であるなど感嘆するしだいでありました。この良き伝統と習慣を、今後次の世代に受け継いでいくのが我々小田中に現在住む人間の努めと考えております。その為にも我々防衛庁宿舎住民もその努力を惜しまぬ所存でありましたので、今後とも宜しく願います。

小田中に住む人々の声！

町内会のみなさん  
どなたでも大いに  
歓迎します。

◇ わたしたちの住む中原区は昭和八年に合併するまでは、中原町でした。この中原という地名は、どうして生まれたのでしょうか。実は東海道のわき往還として、平塚の中原から丸子の渡しを経て江戸に入る中原街道がこの地を通っていることから「中原」という名がつけられました。

正式に「中原」という地名が決まったのは、明治二十二年、村が誕生した時に、村の人たちが協議し、「中原」という地名がつけられました。

## 地域今昔のあれこれ！

### 上小田中の地名の由来

◇ 上小田中は、土地利用の状態から自然に呼ばれたものと解釈されます。

元東京教育大学の浅香博士の研究によれば、「この付近一帯は、古代の条里水田の跡で、重要な稲作地として開拓

多し、また、耕地は畑が多くありました。

◇ 新編武蔵国土記稿より  
上小田中は

上小田中村は那の北にあり江戸日本橋より四里余りという(中略)この村の旧家原家の農民伝ふるところの大ヶ谷戸草創記には、先祖原助解由



大ヶ谷戸小学校ができる前、大ヶ谷戸小所蔵(1950年頃)

文責・石栗 正夫

右衛門勝光、天文年間(一五三二〜五五年)、初めて、大ヶ谷戸の地を草創して、その地に住せり、大ヶ谷戸の名も此時よりは生まれ、(中略)此辺は、田畑多く、畑少しすべ、平地にして山なし。土性は砂、真土うちまじり用水不便にして、ややもすれば旱損の患あり……。

### 「街」を守る消防団

大ヶ谷戸班 原 増男

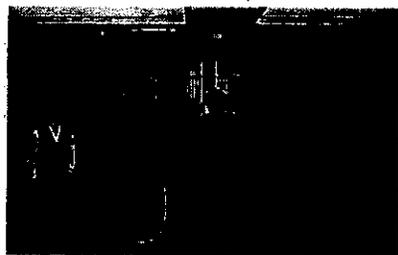
消防とは、地域における水害、火災、地震等の災害による被害を軽減することが任務とされています。そのためには、常に自ら進んで教育訓練に参加し、研鑽に努めなければなりません。消防の主たる行事として、出初式と消防大会があります。双方共、等々力公園で実施されます。消防大会は、日頃の訓練の成果を試す場で、精鋭部隊が勢揃いしての競技会です。尚、火災原因のワースト3、一番多いのが放火、二番がタバコの不始末、そして天ぷら時です。火災のない街に御協力下さい。

### 編集後記

◇ 会報・大ヶ谷戸・こだなかの創刊号が発刊できたこと編集部一同嬉しく思っています。〇それにしても、お忙しい中しかも短期間に原稿依頼をしたにもかかわらず、快くご協力いただき、心のもった玉稿を賜りましたことに感謝しています。

◇ 今後は、この「会報」をわたしたち町会のコミュニケーションの広場として、互いに率直な意見を出しあい、それをよく読み理解しあい協力しあって「住みよい街づくり」の一端を担っていきたくものと念じております。この会報をみんなで内容の充実したものに育てていきましょう。

◇ さて、二〇世紀はいろいろな意味で「重大な変化の時代」でした。人々が「豊かな暮らしを求めた」あまり、不幸な事件や事故も数多く見られました。今年こそ、ある古代の賢人が語った「受けるより与える方が幸福だ」という愛ある年にしたいものです。(M・I)



ゴルフをして楽しむゴルフ愛好会メンバー